

小学校インターンシップ(明成小学校)

団体名 ● 丸井フィールド 2年ゼミ

代表者名 ● 坂下陽祐(人間科学部こども学科2年)、松崎未歩(人間科学部こども学科2年)

はじめに

こども学科2年生の「小学校インターンシップ」では、小学校教員を目指す学生が学校現場での教員の補助の中から、教員に必要な資質・能力とは何なのか、教員としての心構え、児童との関わり方などについて体験的に学んだ。

私たち丸井ゼミ2年生は、金沢市立明成小学校で小学校インターンシップの活動を行った。今回は活動内容や学んだこと、そこから考えたこと、今後の課題等について述べていく。

活動内容

「小学校インターンシップ」では小学校へ週に1回訪れ、2～3時間ほど様々な補助を行った。関わることでできた児童は1～6年生の全学年で低学年から高学年までと幅広く、たくさんの児童と直接的なコミュニケーションをとることができた。補助の内容は、算数や理科といった普段の授業の補助に加え、プリントや宿題のワークの丸つけ、掲示物の印刷や掲示、理科室の実験器具の清掃などがあった。児童と関わりながら学ぶことのできるものや、これまでの「学ぶ立場」からの視点だけでは知ることのなかった学校の教員の仕事にも多く触れさせていただく機会があった。明成小学校では宿泊研修や音楽会、運動会といった学校外での行事もたくさん行われている。私たちのゼミでも行事に参加し学びたいと考えたが、大学の講義との兼ね合いから参加することはできなかった。

授業に参加して補助を行った際には、問題を解いていて分からないところの補助や活動中に作業が遅れてしまっている児童への対応があった。休み時間では児童と話す機会がたくさんあり、児童の好きな教科や習い事、好きなゲームの話などを通して、大学の講義では学ぶことができない児童との関わり方を学んだ。

成果、結果の考察

授業や休み時間での児童との関わりから、日々の児童の些細な成長を近い距離で見ることができるのは教員にとっての大きなやりがいになると実感した。授業準備やそのための教材研究、プリントの丸つけに加えて、掲示物の作成や掲示、備品の整理整頓など、教育現場に出て初めて知った教員の仕事がたくさんあり、児童との日々の関わりを大切にしつつそれらを効率的にこなすことが大切だと考えさせられた。

今後の課題、展望

この「小学校インターンシップ」を通して、授業内容や時間配分などを工夫することで効率的に児童と関わる時間を増やすことができると考えられ、その具体的な方法や他の課題に対してどのように向き合っていくべきか、これからさらに熱意がわくだろう。私たち学生にとって非常に貴重な経験となった。



(明成小学校のホームページから引用)